KOBE GAKUIN UNIVERSITY
神戸学院大学　総合リハビリテーション学部
理学療法学科
准教授　森本　陽介（MORIMOTO Yosuke）

■ テーマ名
内部障害患者に対する回復期リハビリテーションのエビデンス構築

■ キーワード
内部障害、循環器疾患、Post-ICU Syndrome、回復期リハビリテーション

■ 研究の概要
本邦の超高齢社会の進行に伴い、身体機能の回復に要する期間の長期化や、循環器疾患をはじめとする内部障害患者の増加など、リハビリテーションを要する対象者の特性が大きく変化している。回復期リハビリテーション病棟は、本邦独自の制度として集中的かつ長期的にリハビリテーションを実施できる有用なシステムであるが、伝統的には整形外科疾患や脳卒中を主な対象としており、内部障害患者に対応する上で十分な体制が整っておらず、ピットフォールとなっていた。しかしながら、令和４年度より循環器疾患が新たに回復期リハビリテーションの保険診療対象に加えられたことで、内部障害患者に対する回復期リハビリテーションが新たな局面を迎えている。さらに近年、重症疾患の治療を目的に ICU へ入室した患者の多くが集中治療後症候群（Post-ICU Syndrome: PICS）を発症し、その後遺症が長期にわたって持続する可能性が示唆されている。このような背景から、PICS を含む内部障害患者に対して回復期リハビリテーションを適用することの有効性が注目を集めている。

本研究は、循環器疾患患者の身体機能は回復期リハビリテーション後に改善し、80 歳以上の高齢者であってもそれは有効であることを明らかにしてきた。現在はこうした実態調査を踏まえ、具体的な治療ターゲットを抽出する研究に取り組んでいる。加えて、PICS 患者においてはその回復過程が未だ明らかにされておらず、ICU を退室した後の回復期リハビリテーションにおける回復過程の解明にも着手している。

■ 他の研究／技術との相違点
従来の回復期リハビリテーションからの脱却は容易ではなく、内部障害患者を対象とした取り組みは全国的に非常に少ないのが現状である。私の研究実施施設は先進的に内部障害患者に対する回復期リハビリテーションを実践しており、他施設では検証できない対象者数で研究を遂行している。また、競争的資金や研究費の採択によって最新の医療機器による測定も実施している。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ
令和６年度より回復期リハビリテーションの要件に栄養状態の評価が加わり、その重要性が高まっていることから、循環器疾患患者や PICS 患者の栄養状態とアウトカムの関連を詳細に解析し、治療ターゲットを解明していく。また、より質の高い研究デザインによってそのエビデンスを構築していく。

■ 関連業績（特許・文献）
1)，Matsuo T, Ohtsubo T, Yanase T, Ueno K, Kozawa S, Matsubara T, Morimoto Y. Characteristics of Cardiac Rehabilitation for Older Patients in a Japanese Rehabilitation Hospital. Cureus 2025, 17(3),e80939.
2)，Matsuo T, Ohtsubo T, Yanase T, Ueno K, Kozawa S, Matsubara T, Morimoto Y. Influence of Daily Aerobic Exercise Duration on Phase 2 Cardiac Rehabilitation at a Rehabilitation Hospital and Health-Related Quality of Life After Discharge. Cardiology Research 2023, 14(5), 351-359.
3)，大坪拓朗，森本陽介，松尾知洋，上野勝弘，仲山舞，小澤修一．回復期リハビリテーション病棟における循環器疾患患者の特徴－他疾患との比較－ . 心臓リハビリテーション 2023, 29 巻 , 133-144.

■ 研究者から一言
内部障害患者に対する回復期リハビリテーションの有効性や最適な治療ターゲットの探索を通じて、今後ますます重要性を増す内部障害リハビリテーション領域のエビデンス創出と臨床応用を推進していくことを目指す。これにより、高齢社会における QOL 向上や持続可能な医療体制の構築に寄与したいと考えている。